

# 論文作成の手引き

日本学校教育相談学会 学会誌作成委員会

(2020.3.20改訂)

本手引きは、学会員が日頃の研究や実践の成果を論文にするときに役に立つことを願って作成した。投稿者は、投稿規定だけでなく、本手引きを熟読して論文作成の参考にしていただきたい。

## I 論文の種類

本学会誌への投稿論文には次の4種類がある。

- ・研究論文：学校教育相談に関する調査研究、または理論的考察の論文。
- ・実践論文：学校教育相談に関する実践・事例(個別、集団)の実践報告の論文。
- ・実践報告：学校教育相談に関する実践・事例(個別、集団)の実践報告(実践・事例)の内容が中心で、文献研究や考察が少なくともよい。
- ・資料：資料として掲載する価値のあるもの。いずれにあっても、論文としての体裁(先行研究の検討、具体的な方法、結果の考察、参考文献の適切な引用および明示)が整っており、単なる追記やまとめではなく、オリジナリティがあることが望ましい。論文は基本的に先行研究を批判しこれを乗り越えていくという姿勢が求められる。

## II 題目の設定

いずれの論文においても、題目の設定は重要である。大きな題目は避け、できるだけ範囲を限定した、研究内容が明確に分かるような題目がよい。できれば主題一つで論文の全体像が分かるようなものが望ましい。短すぎる題目や、逆にあまりにも長い題目は適切ではない。必要に応じて副題を付けてもよい。また、情緒的・文学的な表現は避ける。「…の一考察」「…について」「…に関する

研究」「…についての検討」等のような題目でもできるだけ避けたい。

### ○短い例：「不登校に関する研究」

この題目は、短く一般的すぎるので、例えば次のようにする。

→「小学生における不登校への初期対応の有効性」

### ○長い例：「思春期不登校児童生徒への担任教師による初期対応の有効性をアンケート調査によって検討した研究」

この題目は、長すぎるので、副題を入れて例えば次のようにする。

→「思春期不登校への初期対応の有効性—担任教師へのアンケート調査の検討から—」

### ○情緒的・文学的な例：「繭の中に籠もった少女A子の悲しみからの脱却の物語」

この題目は、あまりにも情緒的・文学的な表現であるので、例えば次のようにする。

→「中学女子生徒の引きこもりからの回復過程」

## III 研究論文

見出しは一般的には、「問題と目的」「仮説」「方法(調査対象、手続き)」「結果」「考察」「今後の課題」「結語」「付記・謝辞」「文献」となる。このうち、「仮説」が「問題と目的」に含まれたり、立てられなかったりする場合もある。また、「今後の課題」「結語」がなかったり、「今後の課題」が「考察」に含まれたりする場合もある。「付記・謝辞」はない場合もある。

したがって、もっともシンプルな構成は、「問題と目的」「方法（調査対象、手続き）」「結果」「考察」「文献」となる。これらにおける、およその分量の割合は、「問題と目的」= 1～2割、「方法（調査対象、手続き）」= 0.5～1割、「結果」= 3～4割、「考察」= 3～4割、「文献」= 0.5～1割である。

以下に、それぞれの見出しについて説明する。

### 1. 問題と目的

- ①研究のテーマ設定に至った経緯を述べる。
- ②テーマに関して、歴史・最近の動向・先行研究等を簡潔に述べる。
- ③先行研究は、5件程度の簡潔な引用をする。
- ④先行研究を批判し、どこに問題があるか述べる。
- ⑤先行研究の単なる追試（同じことをして確かめること）ではなく、何らかのオリジナリティが求められる。
- ⑥自分の研究の立場、視点等を明確にする。
- ⑦以上を踏まえて、研究の目的を述べる。

### 2. 仮説

- ①仮説は先行研究や目的を踏まえて考え、その数は2～4程度とする。
- ②当たり前のことや、突飛なことを仮説としない。  
**当たり前の例：**クレペリンの精神健康度が高い群ほど、自己肯定感も高いだろう。

### 3. 方法

- ①ある群の変化をみたいならば、統制群（比較する群）を設定する。
- ②各群は、30名以上を原則とする（統計的な意義を見出すため）。困難な場合は事情等を明示し、解釈を限定的に行う。
- ③条件をできるだけ統制する。
- ④結果を数値化（平均と標準偏差）した後、統計処理をし、適切な検定を行う。
- ⑤回収率が30%以下の場合、データに信頼が置けない。

⑥サンプルに偏りがないようにする。

⑦調査研究の場合は、調査を実施した年、サンプル数を明示する。

例：2007年5月、公立中学2年生生徒200人（男子90人、女子110人）にクラス単位で実施した。

### 4. 結果

- ①結果の提示は明確かつ簡潔にし、必要に応じて図（タイトルは下）や表（タイトルは上）を付ける。本文中の図表を縮小する場合は判読できるように注意する。
- ②データの処理方法を明示する。
- ③結果はできるだけすべてを示す。例えば、因子分析表の因子得点は省略せずにすべて示す。

### 5. 考察

- ①結果を先行研究と比較しながら検討する。
- ②検定した結果の有意差について説明をする。
- ③逆に、有意差が出なかった項目についても考察を加える。
- ④仮説が検証されたかどうか述べる。
- ⑤1文献の引用をあまり長くせず、2、3行程度とする。
- ⑥引用しながら筆者自身の考えを述べる。引用が次々と続くような考察は避ける。
- ⑦サンプルの偏りがある場合は、一般的な結論であるかのような述べ方をしない。  
 例：1校だけのスクールカウンセラーの活動に関する調査から一般論的に述べる。  
 → あくまでも1実践事例として述べる。
- ⑧僅差を強調したり、意味を無理に見いだしたりするようなことは避ける。

### 6. 今後の課題

- ①今回の研究で問題として明らかになったことを述べる。
- ②今後の研究で、必要と思われる点を述べる。  
 例1：サンプル数が少ないので、今後増やす必要がある。

例2：発達的な観点からは、思春期のサンプルについて、例えば、小学校高学年・中学生・高校生と広げる必要がある。

## 7. 結語

①必要ならば、研究から得られた知見を簡潔に結語として述べる。10行程度とする。

8. 付記・謝辞（掲載決定後に記載を認める。投稿段階では記載しない）

①修士論文や学会発表原稿等を基に加筆修正した場合は、付記としてその旨を記してもよい。

②調査において協力を得た場合、あるいは論文作成・学会発表等で指導・助言を得た場合は、必要に応じて謝辞を述べてもよい。

## 9. 文献

一般的な図書（単行本、専門雑誌）のほか、各学会が発刊する学会誌・学会発表論文集・大学の研究紀要等が文献となる。週刊誌、ホームページは文献として望ましくない。

①筆者の名字のアルファベット順に配列する。

②文献は、引用文献と参考文献があるが、合わせて10～20程度とする（実践論文の場合は若干少なくてもよい）。なお、見出しの表記は、引用文献のみ、参考文献のみ、引用文献と参考文献のいずれであっても単に「文献」とする。

③年号は、半角数字で、初版の刊行年（西暦）とする。

④引用文献は引用の該当頁のみを次のように表記する。

\*引用が1頁だけの場合：東京太郎『○○○』大阪出版 1990 p.13

\*引用が複数頁にまたがる場合：東京太郎『○○○』大阪出版 1990 pp.25-36

⑤同一著者の文献がある場合は、刊行年順にする。

⑥同一著者の文献が同じ年に複数ある場合は、刊行された順に次のようにする。

東京太郎『○○○』大阪出版 1990a

東京太郎『△△△』京都出版 1990b

⑦共著の分担執筆の場合の表記は次のようにする。

東京太郎「○○○」大阪次郎・名古屋三郎編『△△△』京都出版 2001 pp.1-35

⑧外国文献の表記法は次のようにする。

Winnicott, D.W. (1971) : *Playing and Reality*. Tavistock Publications Ltd, London. (橋本雅雄 訳『遊ぶことと現実』岩崎学術出版社 1979) \*本のタイトルはイタリック

Joins, V. S. (1998) : Redecision therapy and the treatment of depression. *Journal of Redecision Therapy*, 2, pp.35-48. \*雑誌のタイトルと号はイタリック

\*外国語の文献は、著者のファミリーネームを冒頭にし、このアルファベット順とする。

## 10. 研究論文のサンプルスタイル

以下に「研究論文」のサンプルスタイルを提示するので参考にさせていただきたい。

### ●サンプル1

学校嫌い感情の抑制を目指した学校単位の取り組み — 構成的エクササイズの効果の検討 —

#### I 問題と目的

不登校は近年減少しているといわれるが、学校へ登校できず市町の適応指導教室へ通ったり、学校内の別室やあるいは夕方に登校するような生徒が多く、実際に学級の中で授業を受けていない生徒の数は逆に増加している… (略)

このように、生徒が学校へ登校したくないという気持ちを「学校嫌い感情」とするならば、生徒が登校しているうちにこれを抑制することが予防的教育相談として意味があると考え… (略)

そこで、本研究の目的は学校嫌い感情の抑制を目指し、学校で取り組める効果的な構成的エ

クササイズが何かを明らかにすることにある。

## Ⅱ 仮説

- ① 対人関係を扱うエクササイズを継続するほど学校嫌い感情が抑制されるだろう。
- ② 単なるレクリエーションより構成されたエクササイズのほうがより効果が高いだろう。
- ③ エクササイズを実施する教師によって効果の違いはないだろう。

## Ⅲ 方法

### 1. 調査対象

関東地区の公立中学校全校生徒600人（1年男子100人，1年女子100人，2年男子100人，2年女子100人，3年男子100人，3年女子100人）を対象とした。

### 2. 手続き

調査は200X年5月～200X+1年2月，月2回，総合的な学習の時間にクラス単位で担任が実施した。統制群として，各学年の半分のクラスには球技を主体としたレクリエーションを実施した。

効果の測定には，加藤（1999）の「学校適応尺度（25項目，4件法）」を，4月下旬，10月中旬，3月中旬にクラス単位で実施し，結果について標準的な統計処理を行い，有意差を検討した。

## Ⅳ 結果

### 1. 構成的エクササイズおよびレクリエーションの実施内容

表1に構成的エクササイズおよびレクリエーションの実施内容を示した…（略）

### 2. 学校適応尺度

表2に学校適応尺度の結果を示した…（略）

## V 考察

1. 学校嫌い感情の変化
2. 構成的エクササイズの効果
3. 教師による違い
4. 残された課題

〈文献〉

## Ⅳ 実践論文・実践報告

見出しは一般的には、「問題と目的（はじめに）」「事例の概要」「経過」「考察」「おわりに」「付記・謝辞」「文献」となる。このうち、「おわりに」や「付記・謝辞」はない場合もある。

したがって，もっともシンプルな構成は，「問題と目的（はじめに）」「事例の概要」「経過」「考察」「文献」となる。これらにおける，およその分量の割合は，「問題と目的（はじめに）」＝1割，「事例の概要」＝0.5～1割，「経過」＝3～5割，「考察」＝2～4割，「文献」＝0.5割である。

また，事例に登場する固有名詞は使用せず，登場順に，A子，B県，C市，D中学校，友人E子…とアルファベットを使用し，実際のイニシャル（例えば，大阪市をO市，太郎をT男等）は使用しない。

以下に，それぞれの見出しについて説明する。

### 1. 問題と目的（はじめに）

- ① 研究論文と違い，「はじめに」でもよい。
- ② 研究のテーマ設定に至った経緯を述べる。
- ③ テーマに関して，歴史・最近の動向・先行研究等を簡潔に述べる。
- ④ 先行研究の明示は，ここでは必ずしも必須ではないが，2，3挙げたほうがよい。
- ⑤ 実践における自分のかかわりの立場を明確にす

る。

例：担任としてかかわった。

⑥以上を踏まえて、研究の目的を述べる。

例：本事例を通して、不登校の生徒の心理とそ  
のかかわりとしての非言語的なアプローチ  
の有効性を確かめる。

## 2. 事例の概要

- ①児童生徒の年齢、性別、主訴、家族、生育歴、  
来談経緯等を可能な範囲で記す。なお、記述に  
ついては、個人や家族が特定されないように十  
分配慮する。
- ②紙幅が限られているので、概要（特に生育歴）  
をあまりにも詳しく記述する必要はない。

## 3. 経過

- ①年月日は、X年4月15日等と表記し、曜日は原  
則として入れない。なお、年はかかわりの始め  
をX年とし、その1年前はX-1年、1年後は  
X+1年とする。
- ②内容を逐語的にまとめてもよいが、あまりだら  
だらと続かないように注意する。
- ③ある程度一定期間をまとめて記述してもよい。
- ④児童生徒等の発言のみではなく、教員やカウ  
ンセラー等の応答も記述する。
- ⑤事実のみでなく、その時々教員やカウンセ  
ラー等の感想や気づきも記述する。
- ⑥担任の実践報告の場合は、カウンセラーとクラ  
イアントというような枠組みでは書くことがで  
きないであろうが、観察した事実の報告（2時  
間目保健室にいた、この日は早退した等）に終  
始せず、できるだけ上記に準じた記述とする。

## 4. 考察

- ①先行研究との比較検討をする。
- ②単なるまとめや反省とならないようにする。
- ③考察は、3～5項目くらいにまとめると読みや  
すい。
- ④具体的な考察項目は、例えば、1) 当該児童生  
徒等の問題に関する考察、2) かかわりの経過

と当該児童生徒等の変化に関する考察、3) オリ  
ジナルな手法等に関する考察、4) 残された  
課題等である。

## 5. おわりに

- ①経過と考察を概観し、結論を述べる。
- ②「残された課題」をここで述べてもよい。
- ③「おわりに」はなくともよい。

## 6. 付記・謝辞（掲載決定後に記載を認める。 投稿段階では記載しない）

- ①学会発表原稿等をもとに加筆修正したものであ  
れば、付記としてその旨を記してもよい。
- ②論文作成・学会発表等で指導・助言を得た場合  
や、クライアントに発表の許可を得られた場合  
は、必要に応じて謝辞を述べてもよい。ただし  
クライアントの実名は記載しないこと。

## 7. 文献

（研究論文と同じ）

## 8. 実践論文・実践報告のサンプルスタイル

以下に「実践論文・実践報告」のサンプルスタ  
イルを提示するので参考にさせていただきたい。

### ●サンプル2

アスペルガー障害のある児童への支援 ―小学  
校2年男児への1年間のかかわり―

#### I はじめに

アスペルガー障害は、自閉症スペクトラムの  
なかでも知的発達や言語発達の遅れがないとい  
うことで健常児と同じに扱われてきていること  
が多い。しかし、彼らの独特の認知様式は、ウ  
イングのいう障害の「三つ組み」を…（略）

本論文では、担任として1年間のかかわりを  
報告し、A男の変化とその要因について検討す

る。

## II 事例の概要

1. 対象児 A男 小学校2年生男児
2. 家族構成 父親(40代会社員), 母親(40代主婦)とA男の3人家族
3. 問題 アスペルガー障害と診断をされており, 学級内でうまく対人関係が形成できない。
4. 生育歴 … (略)
5. アセスメントとかかわりの方針 … (略)

## III 経過

筆者が担任としてかかわった1年間について, 便宜的に学期ごとにまとめて報告する… (略)

### 1. 1学期

A男は始業式早々…

### 2. 2学期

### 3. 3学期

## IV 考察

以下の4点に関して考察を述べる。

1. A男の障害特性と変化
2. 筆者のかかわり
3. 学級内の取組み
4. 残された課題

## 〈文献〉

## V 資料

見出しは一般的には研究論文に準じ, 「問題と目的」「方法(調査対象, 手続き)」「結果」「考察」「今後の課題」「付記・謝辞」「文献」となる。このうち, 「今後の課題」はなかったり, 「考察」に含まれたりする場合もある。「付記・謝辞」がない場合もある。

したがって, もっともシンプルな構成は, 「問題と目的」「方法(調査対象, 手続き)」「結果」「考察」「文献」となる。これらにおける, およその分量の割合は, 「問題と目的」=1~2割, 「方法(調査対象, 手続き)」=0.5~1割, 「結果」=4~5割, 「考察」=2~3割, 「文献」=0.5~1割である。研究論文と比べて, 「結果」が多く, 「考察」が少ない。

各見出しの書き方は, 基本的に上記の「研究論文」に準ずるが, 「結果」については図表を多用するなどして, 丁寧に, 分かりやすく提示することが望まれる。

### 1. 資料の題目例

資料の題目としては, 例えば次のようなものが考えられる。

#### 例1: 日本における教育相談の歴史と展望 —文献考察を通して—

過去40年の教育相談に関する文献を100件程度当たり, 教育相談の歴史を概観するとともに, 今後の望ましい姿を展望・提言する。

#### 例2: 中学校におけるいじめの実態調査

ある市内の3中学校の生徒, 計1,800人にいじめに関する実態を把握するためにアンケート調査を実施し, その結果を図表等で示し報告する。

#### 例3: アメリカのスクールカウンセラー制度の

## 実態と問題点

アメリカのスクールカウンセラー制度について  
実地調査し、文献により考察を補足する。

## 2. 資料のサンプルスタイル

以下に「資料」のサンプルスタイルを提示する  
ので参考にしていきたい。

### ●サンプル3

適応指導教室における10年間の記録  
—アンケート調査の結果を踏まえて—

## I はじめに

適応指導教室は不登校の児童生徒を対象に、  
居場所の提供だけでなく学習や対人関係の支援  
として大きな役割を果たしてきた。A市にも平  
成9年から適応指導教室が誕生し… (略)

## II 方法

A市適応指導教室の10年間の記録をまとめ  
る。また、当教室の通室した児童生徒10人、職  
員5人にアンケート調査と半構造化面接を実施  
した。

## III 結果

表1に、10年間に利用した児童生徒の学年  
別、男女別の人数を示した。これによれば、通  
室人数はどの学年も男女とも年を追うごとに増  
えている… (略)

また、もっとも利用数が多いのは、中学2年  
生である… (略)

次に、表2に児童生徒10人のアンケート結果  
を示した。これによれば、どの児童生徒も適応  
指導教室に対する満足度は高いといえる。その  
理由として「友だちができた」「学習ができた」

がもっとも多く、続いて… (略)

## IV 考察

以下の2点からの考察を行う。

1. 適応指導教室の役割
2. 適応指導教室の問題

<文献>

## VI 要旨

- ①要旨は一つの段落(400字程度)で簡潔に述べる。
- ②論文全体の要旨、つまり目的、方法、結果、考  
察(実践事例の場合は、事例の概要、経過、考  
察)の要点をまとめる。
- ③「問題と目的」や「はじめに」の一部とほとん  
ど同じ内容の「要旨」が時々みられるが、この  
ようなものにしないこと。

## VII キーワード

- ①論文の内容が分かるような、適切な語句(用語)  
をキーワードとして3つ程度挙げる。
- ②一般用語ではなく、できれば専門用語がよい。  
例：分離不安、家庭訪問、行動療法

この例は、不登校の実践事例ならば、不登  
校の背景に母子「分離不安」があり、「家庭  
訪問」してかわりを持ち、手法として「行  
動療法」を用いたという全容が分かる。

## VIII 共通した留意事項

- ①投稿規定を遵守すること。特に、図表を含めた  
分量(原稿用紙換算12,000字程度)を守ること。  
40字×40行の書式の場合は9枚程度となる。
- ②章、節、項を適宜用い(これがない論文は読み  
にくい)、順に「I」、「1.」、「(1)」とする。

- ③文体は「である調」とし、「…と思う」「…と思われる」「…ではないか」等ではなく、「…である」「…と考えられる」「…と言える」「…と推察される」等とする。
- ④詩的、情緒的な表現は避ける。  
例：「モワーとした」「とっても悲しかった」というような表現を使用しない。
- ⑤執筆者は自分を「私」ではなく「筆者」と表現する。
- ⑥専門的な用語や概念は適切に使用すること（無理な使用は、論文の評価を損ねる）。
- ⑦略号は使用しない（SC, ST, HR, TT等）。もし使用する場合は最初に説明する。  
例：スクールカウンセラー（以後、SCと記す）
- ⑧算用数字やアルファベットは原則として半角とする。
- ⑨強調のために傍点・傍線・カッコ・ゴチック体・斜体等を多用しない。
- ⑩盗用とならないよう十分注意し、引用文献と引用箇所の明示をすること。引用の仕方は次のようにする。  
例1：加藤（1990）は、「○○○」と述べている。  
例2：この点については、「○○○」（加藤，1990）という指摘がある。  
要約引用の場合も出展を明示する。
- ⑪注を付ける場合は、本文中に「○○\*<sup>1</sup>」「△△\*<sup>2</sup>」と表記し、巻末の文献の前に独立して記述する。
- ⑫特殊な文字や記号、あるいは囲みは使用しない。
- ⑬誤字脱字や分かりにくい表現がないか、何度も読んで確認すること。  
長い文には、主語と述語が一致しない「ねじれの文」がよくみられるので注意すること。  
確認のためには、パソコンの画面ではなく、実際にプリントアウトしたものに目を通す方がよい。
- ⑭プライバシーにかかわること・倫理上の問題には十分配慮すること。
  - 1) 守秘義務を遵守する。
  - 2) 個人や家族が特定されないようにする。

- 3) 実践事例の場合当事者にできるだけ承諾を得、固有名詞・固有名詞のイニシャル化はいっさい使用しないようにする。
- 4) 偏見や差別を助長する不適切な表現をしない。

## IX その他

### 1. 先行研究の検索の仕方

- ①学会誌のバックナンバーの論文タイトルは、学会ホームページで確認することができる。
- ②大学・教育センターの図書館や公立図書館の検索システムを利用するか、インターネットで「論文情報ナビゲーター CiNii」「科学技術情報発信・流通総合システムJ-STAGE」等を利用すると便利である。
- ③一つの論文の巻末にある文献リストから次の文献にあたり、さらにそのリストにある文献にあたるというように「芋づる式」に検索することも効率的である。

### 2. 力量を身に付ける

論文を作成するための力量を身に付けるには、普段から学会や研修会に積極的に参加して他者の発表を聞いたり、学会誌や専門書に触れたりして、常に新しい情報を取り入れ、意識を高めておくことが必要であろう。

### 3. 推薦文献

以下の文献は論文作成に大いに役立つと思われるので参考にさせていただきたい。

- ・小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 2018
- ・杉本敏夫『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』サイエンス社 2005
- ・津川律子・遠藤裕乃『初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル（第2版）』金剛出版 2011